



大図研第 49 回全国大会（九州）のご案内

第 49 回全国大会は、九州にて開催いたします。
日程、会場は以下のとおりです。申し込み開始まで、今しばらくお待ちください。

日 時：2018 年 9 月 8 日（土）～2018 年 9 月 10 日（月）

会 場：西南学院大学図書館 及び 百年館（松緑館）

〒814-8511
福岡市早良区西新 6-2-92
福岡市営地下鉄「西新」駅から徒歩 5 分

<http://www.seinan-gu.ac.jp/accessmap.html>

主 催：大学図書館問題研究会

問合せ：taikai@daitoken.com

[目 次]

大図研第 49 回全国大会（九州）のご案内	…	1
秋のお楽しみ企画 BBQ 報告		
バーベキューは好きですか？	山下 ユミ	… 2
本の紹介 第 9 回		
『強い文教、強い科学技術に向けて：客観的視座からの土俵設定』	坂本 拓	… 4
支部報 No.321 に関するお詫び		… 6
会費納入のお願い		… 6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com （大学図書館問題研究会京都地域グループ）

URL：http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm

秋のお楽しみ企画 BBQ 報告

バーベキューは好きですか？

山下 ユミ

私は子どもの頃、飯盒を誕生日プレゼントに欲しがるほどアウトドアライフにあこがれていて、テントに泊まったり、飯盒炊きさんをしたり、キャンピングカーに乗ることを夢見ていた。けれども、飯盒は使うことなくどこかへやっしまい、バーベキューの機会がほとんどないまま、今に至る。でも、ここ数年むくむくと、バーベキューをやりたい！という気持ちが湧き上がってきたので、今回、京都地域グループでお楽しみ企画を立ち上げた。

京都地域グループでは、セミナーを毎年数回やっていて、実施に至るまでの手順は、ある程度ルーティン化されている。企画が出たあとは、講師と日程の調整、場所の決定、広報、当日までの準備と分担、必要な物品の手配など、やることは大体同じである。だから、あまり考えることなく、サクサクと全員が配置につく。

しかしバーベキューは、私が、日程、場所、メニュー、交通手段、手順等々を決めなければ、何も進まない。ヘタレの私は、春に一度企画すると言い出したものの、グループ委員内で反応が薄かったことで自信をなくしてしまった。誰も興味がなかったら、人が集まらなかったら、ドライバーがいなかったらどうしよう、と心配しているうちに、夏が来てしまった。夏の京都で野外バーベキューは、ただの苦行である。企画は一旦流れた。

けれども、あきらめきれずに、次は余裕を持って、秋の企画として再チャレンジ。日程と場所を決めて企画案を出すと、参加したい、車を出していいよ、という人もいて、何とか走り出した。参加者は9人。チャイルドシートを借りてお子さんを連れてきてくれた人もいて、とても嬉しかった。

私はバーベキューに行けるのが嬉しすぎて、100円ショップとドンキホーテを回って大きな紙皿を買いこんだり、箸休めのサラダを作ってジップロックに詰めたり、どの車に乗るのか決めるくじを作ったり、天気予報を毎日チェックしたりして、勝手に楽しんだ。

11月3日の当日は、少し肌寒いながらもまずまずのお天気だった。参加者は、出町柳の枳形商店街に集合し、肉班、魚介班、飲み物班などに分かれてもらった。それぞれの班に、準備していた買い物リストを渡し、買い物をお願いした。その後2台の車に分乗して、「京都花背リゾート山村交流の森」という山の中の公園に向かった。

会場につくまでのドライブは1時間以上。一山越えて、美しい溪流や美しい森林が増えてきたところで到着した。バーベキューサイトでは、炭は使い放題、網も貸して下さって、設備が整っていた。山の中の公園ではあったが、心配することはあまりなく、アウトドア初心者の幹事としては胸をなでおろした。頼りになる男性陣に火をおこしてもらって、首尾よくバーベキューを始めることができた。

バーベキューの主役といえば、お肉である。肉の買出し班は、こだわりをもってお肉

を買っていて、タン、バラ、ロース、和牛ステーキ肉など、一品出るたびに盛り上がる見事な構成だった。肉はおいしいものを十分に買ってこそ、バーベキューは楽しいということがよくわかった。

ただ、肉班は肉に夢中になりすぎていたのではないだろうか？焼肉のたれを買い忘れていたことに気づいたときは、気まずい空気が流れた。実際には、その公園で購入できて問題は解決したが、別の場所を会場に選んでいたら、全ての肉を塩でいただくバーベキューになっていたかもしれない。それはそれで乙なものだったかもしれないけれど。

バーベキューに行くにあたって、肉を買い忘れることは、まあないだろう。「幹事は、出発する前に、買い忘れがちな調味料をチェックするべきである」という、いつ使うかわからないワンポイントを、私は心にとどめた。

さて、ビールやジュースで乾杯し、お肉以外にも、きのこや野菜、焼きそばや焼きおにぎりを、私たちは次々と平らげていった。空気のおいしい野外で、みんなでわいわいと楽しめば、どれも格別においしい。これがバーベキューの醍醐味であろう。

では、バーベキューの後は、何をしたらいいのだろうか？何かプログラムを考えておく必要があったのだろうか？たとえばハンカチ落としとか。幹事としては少し心配していたが、気持ちよい風に吹かれながら、きれいな緑を見ていると、それだけで時間が過ぎていき、結局何もしなかった。参加者は思い思いに、散歩したり、その日は紅葉まつりをしていたので、それを見に行き農産物を買ってくる人がいたり、ボールを借りて遊んでいる人もいたり、何となく夕方になった。

暗い山道を帰るのは危険なので、私たちは、明るいうちに公園をあとにした。険しい道を、行きも帰りも運転してくれたドライバーのお二人には、とても感謝します。どうもありがとう。

こうしてバーベキュー企画が実現してみると、心配していたことも、大丈夫なことばかりだった。初めてのことをするときには、誰でも心配になるものである。でも、必要なのは、やりたいと宣言すること、そして実際にやることだけである。次にバーベキューを企画するときには、きっと私はもっと大胆になれるし、冒険もできそうな気がしている。

やました ゆみ（京都府立医科大学附属図書館）

本の紹介 第 9 回

『強い文教、強い科学技術に向けて：客観的視座からの土俵設定』

坂本 拓

今回ご紹介する本は、直接は図書館とは関係しないのですが、日本のお金を司る「最強省庁」（でい続けられるのか不明ですが）の財務省の方が書かれた書籍です。2012年6月出版なので6年前の本になってしまいます。著者である神田眞人氏は当時、財務省主計局主計官という地位におられ、大学の予算も含めた、文科省関連の予算を担当されていた方です。氏がこの書籍を書かれたのは、民主党政権時代であり且つ東日本大震災の直前直後、ということで今とは大きく状況が異なる点もあるのですが、大学を含めた文科省関連の予算の状況、そして日本全体の財務状況について概観が掴めるということで、そのようなことに関心がある方には参考になると思い、紹介させていただきます。

本書は大きく3部構成になっています。第1部は「問題意識 超有識者達の洞察と叡唆」というタイトルで、その名のとおり、各分野の超一流の識者との対談が収められています。顔ぶれが豪華です。東京大学総長の濱田純一先生、理化学研究所理事長の野依良治先生、慶應義塾長の清家篤先生、京都大学の山中伸弥先生、前杉並区立和田中学校校長の藤原和博先生、東京藝術大学学長の宮田亮平先生、日本オリンピック委員会副会長の福田富昭先生、Oxford University 教授の荻谷剛彦先生、中央教育審議会会長の三村明夫氏、日本学術振興会学術システム研究センター所長の小林誠先生、そして落語家の三遊亭円楽師匠、です（肩書は全て2012年6月時点のもの）。これらの方々と、大学教育はもちろんのこと、研究者評価、奨学金、義務教育、私学助成、日本の文化行政等について白熱した対談が交わされています（一部、お立場があるため、当たり障りの無いことしか言っていない人もいますが）。

世界大学ランキングでの地位下降、博士の学位を持ちながら就職ができないポストク問題、URAの必要性、小中学校でのクラブ活動問題、労働人口を補完するための移民政策など、今日と直結するテーマが2012年時点で議論されています。特に興味深いのは、やはり山中伸弥先生の対談です。学術情報流通にも言及されていて、日本のジャーナルを育てるべきなのか、それとも海外の主要ジャーナルとコネクションを構築するべきなのか、等について分量としては1ページ程度ですがお話しされていたりもします。

多くの対談で共通しているのは、それぞれの識者が、それぞれの分野で起きている問題解決の方法を提示し、そのためには財務省の援助が必要だ、と伝えるが、著者の神田氏は、日本の収入の約半分が国債費であるという危機的な財政状況を伝え、それが難しいという話になっています。

第2部は「政策 強い文教、強い科技の議論のために」というタイトルで、神田氏が多くの財務的な統計データを示しながら、第1部でも頻繁に話題になったいくつかのトピックについて、論理的な状況説明をしています。たとえば、日本は、GDPに占める教育関連予算がOECD加盟国の中でも低い、という議論があるが、日本は少子化であるため総人口に占める子どもの割合もOECD加盟国の中では低く、それを補正した子ども1人あたりの教育支出はほぼOECDの平均に近い等、「なるほど」と思われるものがあります。また国立大学に対しても、運営費交付金は確かに下がっているけれども、科研

費などの競争的資金を併せると、実は法人化前よりも支出金額は増えている、ということです。

第3部は「実践 改革の推進」という名で、平成23年度予算について、どの項目にどれだけの予算をどのような理由でつけたのか、が説明されています。ここも「ああ、あの時ああいう変化があったのは、このためだったのか」というのがわかったりします。また、東日本大震災の復興予算についても詳細に説明されているので、6年前のことはありますが、勉強になります。またすでにこの時点で、今年大きく話題になった、1法人の下で複数の大学を運営する「アンブレラ式」が議論されていることも伺えます。

そして、最後に少しだけ第4部として「補論 文教・科技を支える我が国の財政事情」が設けられており、ここで国債に依存した現在の日本の財政がいかにか危険なのかが、明瞭に書かれており、神田氏なりのその解決方法、財政健全化の方法が述べられています。

本書は、財務省の広報誌『ファイナンス』に掲載されていた記事をまとめたものになるため（書き下ろしの第4部以外）、内容の重複が見受けられる箇所も少なくありません。しかしそれを差し引いても、多くのことが学べると思います。私たちは、「運営費を削って職員の人件費を圧迫すると組織が弱体化する」とか「もっと基礎研究に予算を出さないといけない」とか言ったりしますし、それ自体は確かに正論です。しかし、その全ての大元である日本の財政状況が壊滅的な中で、戦略レベルを無視した戦術レベルの正論を唱えても、限られたパイを少しでも自分が多く取りたいという近視眼的なエゴイズムにしかありません。そのような視点の変換が本書からは得られるのではないかと思います。

なお、本書の続編として「超有識者達の洞察と示唆：強い文教、強い科学技術に向けて(2)」(2016年3月)、そして「超有識者達の慧眼と処方箋：強い文教、強い科学技術に向けて(3)」(2018年2月)の2冊が刊行されています。本書を読んだ後、興味を持たれた方はこれらを読み進めていただくのも良いと思います。

さかもと たく (京都大学 附属図書館)

支部報 No. 321 に関するお詫び

支部報 2017 年 12 月号の紙媒体につきまして、巻号の表記に誤りがありました。No. 320 と表記しておりましたが、正しくは No.321 です。謹んでお詫び申し上げます。

誤 : No. 320 (2017.12)

正 : No. 321 (2017.12)

今後このようなことがないように、十分留意して編集を行う所存です。

(支部報編集担当)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017 年度(2016 年 7 月～2017 年 6 月)より、大学図書館問題研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館問題研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

また、地域グループ(従来 of 支部)に所蔵される方は、地域グループ費と合わせてご納入いただくことになっています。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019

■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキューウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館問題研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)まで。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。